

8

ミャンマー

バガン遺跡

ミャンマー・バガン遺跡は、11 世紀から 13 世紀の間に栄えたミャンマー最初の統一王朝であるバガン王朝の首都バガンに築かれ、カンボジアのアンコール・ワット、インドネシアのボロブドゥールとともに世界三大仏教遺跡のひとつと称されています。

バガン王朝の歴代の王は、上座部仏教の普及を進めるため仏塔や寺院を建設し、その結果、上座部仏教は広く民衆に受け入れられ、人々は自ら輪廻転生を信じ進んで寄進するようになりました。そして、民衆も自ら仏塔や寺院の建設を推進したため、バガン王朝が栄えた 11 世紀から 13 世紀の間に数多くの仏教遺跡が建設されました。

バガン王朝においては、素晴らしい建築様式のみならず、絵画、石工、青銅鑄物、彫刻、金銀細工などのミャンマーの伝統的芸術が誕生し、バガン遺跡の建築内部に芸術性の高い壁画や天井画も有することとなりました。

今回展示している 12 世紀に描かれたグービャウツギー寺院（ミンカバー）の壁画においては、数多くの楽器や優雅な舞踊が描かれており、当時誕生した文化芸術水準の高さが感じられます。



バガン遺跡